

20世紀彫刻の開拓者

ハンス・アルプ展 Hans Arp

—生まれるかたち、生みだすかたち—

- 会 期 : 2005年1月15日(土)~3月27日(日)
 休 館 日 : 月曜日 [ただし3/21は開館]、祝日の翌日(3/22) [ただし2/12は開館]
 開館時間 : 午前9時30分~午後5時(入場は午後4時30分まで)
 観 覧 料 : 一般1200(1100)円 20歳未満・学生1050(950)円 65歳以上600円
 ()内は20名以上の団体料金です。
 高校生以下の方、障害者の方は無料です。
- 会 場 : 神奈川県立近代美術館 葉山
 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1
 tel.046-875-2800
- 主 催 : 神奈川県立近代美術館、東京新聞
 共 催 : アルプ美術館
 後 援 : ドイツ連邦共和国大使館
 協 力 : 全日空、日本貨物航空

Lender : Stiftung Hans Arp und Sophie Taeuber-Arp e.V. mit Nachlass Johannes Wasmuth,
 Land Rheinland-Pfalz-Sammlungen für das ARP MUSEUM Bahnhof Rolandseck

1886年にストラスブールで生まれたハンス・アルプ(1886-1966)は、20世紀前半の近代美術におけるもっとも革新的な芸術家のひとりに数えられます。国際的なアヴァンギャルド運動と共に歩んだアルプは、1916年にダダイズムの創始者のひとりとなり、また1920年代の半ばにはシュルレアリスム運動に参加しました。特に、このダダイズムの時期に、アルプはさまざまな身近なものから「へそ」や「口髭」といった人体の一部、「帽子」といった日用品、「葉」といった自然物から—彼独自の有機的な「かたち」を抽出しました。その後のさらなる「かたち」とそれらの配置や構成の探求は、彫刻を中心になされましたが、それらの作品は今日、独自の創造力を持った重要な芸術家としてアルプを位置づけています。戦後は、それまでの有機的なかたちをした彫刻に加えて、いわゆる「敷居」彫刻という、金属の厚い板をくり抜いた作品なども制作しました。

今回の展覧会は、ドイツ連邦共和国による「日本におけるドイツ 2005/2006」参加事業として、ラインラント・プファルツ州レマゲンにあるアルプ美術館との共同企画として、日本におけるハンス・アルプの本格的な個展としては、およそ20年ぶりに開催されるものです。彫刻とレリーフ合わせて約80点を含む、計約150点の作品を、テーマに従った8つのグループに分けて展示し、アルプの創作の全体像を明らかにします。

[同時開催] 於: 第4展示室

矢代幸雄資料展 Archive of Yashiro Yukio

若くして英文による大著『サンドロ・ボッティチェルリ』(1925)を刊行し、西欧の美術史家から高く評価された日本を代表する美術史家矢代幸雄(1890-1975)。その人生を賭して世界のなかに日本美術を位置づけようとした情熱的な試みを、寄贈・寄託を受けた資料を中心に約100点の展示で、浮かび上がらせようとする展覧会です。

お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 葉山 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1

tel.046-875-2800 / fax.046-875-2968 広報担当: 忌部 アルプ展担当: 初山 (momiyama@moma.pref.kanagawa.jp)

URL: <http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/> 矢代幸雄展担当: 橋